

月別市況

1 月

1月の取扱頭数は、牛9,787.5頭、豚2,428.0頭、1日平均取扱頭数は、牛544頭(前月比77.4%)、豚1,349頭(前月比89.1%)であった。入荷は牛減少、豚は増加。

相場は、末端の消費不振から、スソ物がスーパーなどの手当てがシフトしたため上昇したものの、上物は年末年始需要が一段落したこともあって値下がりするなど全般的に弱含んだことから、和牛は、前月比、前年比ともに高級物が価格を下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,890円、乳牛(B-3)1,284円であった。

豚生体(上規格)は、年明けから安定基準価格を上回る展開であった。次いで、寒波・雪害等で出荷が滞ると品薄感がさらに相場を押し上げた。下旬には450円以上と例年にない高値展開を見せた。平均価格は、433円(前月比57円高)と上げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,370,032頭で、一日平均76、113頭と前月比22.9%増。相場は強含み。

輸入牛肉は、取扱量261.8トン(前月比73.0%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は686円で前月比36円高となった。

2 月

2月の取扱頭数は、牛10,896.5頭、豚23,572.0頭、1日平均取扱頭数は、牛574頭(前月比105.5%)豚1,241頭(前月比92.0%)であった。入荷は牛増加、豚は減少。

相場は、引き続き末端消費の低迷基調で推移したが、和牛は全体的に前年比・前月比とも高い相場展開となった。2月のと畜頭数が施設の衛生工事に伴い、前年に比べ3割ほど減少したことも高値の要因と考えられる。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,902円、乳牛(B-3)1,304円であった。

豚生体(上規格)は、寒波・雪害等の影響により出回り頭数の不足感が相場を押し上げる展開で前半を推移したが、後半は雪害等の影響も薄れ安定的な相場の推移となった。平均価格は446円(前月比13円高)と上げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,289,826頭で、1日平均67,886頭と前月比10.8%減。相場は強保合。

輸入牛肉は、取扱量411.4トン(前月比157.1%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は603円で前月比83円安となった。

3 月

3月の取扱頭数は、牛11,465.5頭、豚25,653.0頭、1日平均取扱頭数は、牛546頭(前月比95.1%)豚1,222頭(前月比98.5%)であった。入荷は牛・豚ともに減少。

相場は、食費以外の出費がかさむ時期であるうえに、今年は慢性的な消費低迷を反映して、牛肉相場は堅調に推移してきたスソ物も含め全面安の展開となった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,843円、乳牛(B-3)1,187円であった。

豚生体(上規格)は、欧州の口蹄疫の影響を受け、輸入禁止措置がとられ、相場上昇の気配が感じられたが、一部が解除となり初旬は420円~451円で推移した。平均価格は424円(前月比22円安)と下げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,376,115頭で、1日平均65,529頭と前月比3.5%減。相場は弱含み。

輸入牛肉は、取扱量343.8トン(前月比83.6%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は594円で前月比9円安となった。

4 月

4月の取扱頭数は、牛11,904.0頭、豚22,908.0頭、1日平均取扱頭数は、牛595頭(前月比109.0%)豚1,145頭(前月比93.7%)であった。入荷は牛増加・豚は減少。

相場は、消費者の低価格志向を受けて、スソ物の値上がりが目立った。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,906円、乳牛(B-3)1,249円であった。

豚生体(上規格)は、出荷頭数の伸び悩み、口蹄疫の影響もあり、月の前半は430円台で推移した。後半は連休需要の引き合いが弱く上げ下げの頻繁な相場推移が見られた。中旬から下旬にかけて410円台まで展開したが、最終で、430円台に回復した。平均価格は430円(前月比6円高)と上げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,332,169頭で、1日平均66,608頭と前月比1.6%増。

輸入牛肉は、取扱量160.1トン(前月比46.6%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は591円で前月比3円安となった。

5 月

5月の取扱頭数は、牛11,986.5頭、豚25,358.0頭、1日平均取扱頭数は、牛545頭(前月比91.6%)豚1,153頭(前月比100.7%)であった。入荷は牛減少、豚は増加。

5月は、連休等の需要拡大期にあるが、末端の消費低迷を反映して、前月比では全般的に値下がりした。しかし、前年同月比では高く、堅調な相場で推移した。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,837円、乳牛(B-3)1,249円であった。

豚生体(上規格)は、連休後の在庫不足のため457円~507円と高値相場となった。その後も高温の影響等で出荷減少があったため高値相場が続いた。平均価格は483円(前月比53円高)と上げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,363,389頭で、1日平均61,836頭と前月比7.2%減。相場は強保合。

輸入牛肉は、取扱量209.7トン(前月比131.0%)で、平均価格は720円で前月比129円高となった。

6 月

6月の取扱頭数は、牛11,046.0頭、豚21,509.0頭、1日平均取扱頭数は、牛526頭(前月比96.5%)豚1,024頭(前月比88.1%)であった。入荷は牛・豚ともに減少。

6月は消費形態が夏型の焼き肉需要に移行する端境期であり、特に梅雨入りで食肉消費は伸び悩み時期である。それに加えて、消費の低迷が続いており、前月比では値下がりした。上げ下げの目立つ乱調な相場展開となった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,826円、乳牛(B-3)1,222円であった。

豚生体(上規格)は、前年の猛暑の影響で出荷が減少し、前半は高値推移が続いたが、後半は調整相場となった。平均価格は、539円(対前月比56円高)と上げた。相場は強含み。豚の取引は、全国出荷頭数1,251,597頭で、1日平均59,600頭と前月比3.6%減。

輸入牛肉は、取扱量154.6トン(前月比73.7%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は667円で前月比53円安となった。

7 月

7月の取扱頭数は、牛 11,812.0 頭、豚 20,682.0 頭、1日平均取扱頭数は、牛 562 頭(前月比 106.8%)豚 985 頭(前月比 96.2%)であった。入荷は牛増加、豚減少。

7月は消費の増加が見込める時期であるが、価格の形成には反映されなかった。月の後半には、1,900 円台を出したが、牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,862 円、乳牛(B-3)1,266 円であった。

豚生体(上規格)は、猛暑の影響などから出荷頭数も少なめとなり、600 頭~800 頭台で推移した。このことから、枝肉相場は上げの要因が強まったが、前後半 500 円台での推移が続いた。平均価格は、560 円(前月比 21 円高)と上げた。相場は強含み。豚の取引は、全国出荷頭数 1,239,561 頭で、1日平均 59,027 頭と前月比 1.0%減。

輸入牛肉は、取扱量 234.0 トン(前月比 151.4%)で、セリ上場の取引はなし、平均価格は 760 円で前月比 93 円高となった。

8 月

8月の取扱頭数は、牛 11,598.0 頭、豚 24,353.0 頭、1日平均取扱頭数は、牛 527 頭(前月比 93.8%)豚 1,107 頭(前月比 112.4%)であった。入荷は牛減少、豚は増加。

8月は、店頭消費の動向を反映して、和牛、交雑のスソ物が前月比、前年比ともに値上がり傾向となった。和牛去勢 A-4 で、中旬に 1800 円台前半まで下げたものの、全般的には 1800 円台後半から 1900 円台前半の値動きとなった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,868 円、乳牛(B-3)1,287 円であった。

豚生体(上規格)は、月前半、500 円台の後半で推移したが、月後半は 400 円台になり徐々に値を下げ、月末には 464 円まで下げた。平均価格は、516 円(前月比 44 円安)と下げた。相場は弱含み。豚の取引は、全国出荷頭数 1,311,733 頭で、1日平均 59,624 頭と前月比 1.0%増。

輸入牛肉は、取扱量 51.3 トン(前月比 21.9%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は 657 円で前月比 103 円安となった。

9 月

9月の取扱頭数は、牛 10,107.5 頭、豚 23,630.0 頭、1日平均取扱頭数は、牛 532 頭(前月比 100.9%)豚 1,244 頭(前月比 112.4%)であった。入荷は牛・豚とも増加。

9月は 10日に BSE を疑う牛が発生し(21日に患畜と断定)、国の 30 ヶ月齢以上の牛に対する集荷自粛要請等を受けて、26日以降上場頭数は減少した。しかし需要の減退も起こり、前月比、前年比とも値下がりが見られた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,732 円、乳牛(B-3)1,121 円であった。

豚生体(上規格)は、9月の涼しい時期を迎え出荷頭数が増えて相場が下落するという例年の値動きとなった。BSE の発生を受けて、牛肉の代替え需要の期待があったものの大きな動きはなく、月を通して 400 円台の値動きとなった。平均価格は 442 円(前月比 74 円安)と大きく下げた。相場は弱含み。豚の取引は、全国出荷頭数 1,263,420 頭で、1日平均 66,496 頭と前月比 11.5%増。

輸入牛肉は、取扱量 49.1 トン(前月比 95.6%)で、セリの上場はなし。平均価格は 674 円で前月比 17 円高となった。

10 月

10月の取扱頭数は牛 4,106.0 頭、豚 28,742.0 頭、1日平均取扱頭数は牛 187 頭(前月比 35.2%)豚 1,306 頭(前月比 105.0%)であった。入荷は牛減少、豚は増加。

10月 11日、東京市場に出荷された牛の中から BSE 検査疑似陽性の牛が発見されたことを受け、東京都は東京市場において 4日間牛の取引と流通を停止した。また、18日から BSE 全頭検査が実施された。このため牛生体の取扱量は例月に比べて大幅に減少した。価格面でも、国の「安全宣言」後も消費は回復せず、前年比、前月比とも全面的に値下がり傾向となった。牛枝肉(去勢生体)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,521 円、乳牛(B-3)885 円であった。

豚肉については BSE 感染牛発見による牛肉の代替え需要と、輸入豚肉のセーフガード発動によるチルド不足により、国内産の引き合いが強く、豚生体(上規格)は高値展開となった。平均価格は 468 円(前月比 26 円高)と上げた。相場は強保合。豚の取引は、全国出荷頭数 1,551,415 頭で、1日平均 70,519 頭と前月比 6.2%増。

輸入牛肉は、取扱量 27.3 トン(前月比 55.6%)で、平均価格は 598 円で前月比 76 円安となった。

11 月

11月の取扱頭数は、牛 11,775.0 頭、豚 27,020.0 頭、1日平均取扱頭数は牛 512 頭(前月比 273.8%)豚 1,175 頭(前月比 90.0%)であった。入荷は牛増加、豚は減少。

牛生体の取扱量は、前月比 68.7%増となったが、前年比 23.8%減となっている。相場は 21日に 2頭目の BSE 感染牛が発見されてから需要が急激に落ち込み、月末には 1,312 円(和牛去勢 A-4)までとなった。しかし、前月比で見ると和牛は全体的に上昇した。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,579 円、乳牛(B-3)789 円であった。

豚生体(上規格)は、牛肉の代替え需要と、鶏肉の高値の影響を受け、前月と同様高値展開となった。月平均価格は 495 円(前月比 27 円高)と上げた。豚の取引は、全国出荷頭数 1,514,632 頭で、1日平均 65,854 頭と前月比 6.6%減。

輸入牛肉は、取扱量 17.9 トン(前月比 65.5%)で、平均価格は 765 円で前月比 167 円高となった。

12 月

12月の取扱頭数は、牛 14,438.0 頭、豚 26,193.5 頭、1日平均取扱頭数は、牛 578 頭(前月比 112.9%)豚 1,048 頭(前月比 89.2%)であった。入荷は牛増加、豚は減少。

12月は、前月下旬の 2頭目、3頭目の BSE 感染牛発見の影響により相場が急激に下落した。等級の低い物ほど下げ幅が大きく、前月比 5割の低下といったものまで現れた。牛枝肉(去勢生体)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,412 円、乳牛(B-3)539 円であった。

豚生体(上規格)は、牛肉の代替え需要で高値安定の相場を維持してきたが、本月はさらに一段高の展開となった。月の前半から 500 円台を維持し、下旬には 600 円台にまで上げた。平均価格は、556 円(前年比 61 円高)と上げた。豚の取引は、全国出荷頭数 1,548,518 頭で、1日平均 61,941 頭と前月比 10.1%減

輸入牛肉は、取扱量 210 トン(前年比 1,176%)。平均価格は、638 円で、前月比 127 円安となった。